

第6学年 国語科学習指導案

対 象 6年3組 男18名, 女23名 計41名

指導者 高久 和則

- 1 単元名 優れた表現を味わい, 作品の世界を朗読で表現しよう
教材名 主教材 「やまなし」(光村図書 国語6)
補助教材 「イーハトーブの夢」(光村図書 国語6)

2 単元について

(1) 児童について

本単元にかかわる既習事項について聞いたところ, 次のような結果であった。

宮沢賢治のどの作品を読んだことがあるか	「風の又三郎」「セロ弾きのゴーシュ」「銀河鉄道の夜」「雪渡り」「注文の多い料理店」「よだかの星」「月夜のでんしんばしら」「どんぐりと山猫」「月夜のけだもの」
文学的文章の学習に対する印象・感想	いろいろな感じ方があって面白い。 読んで感じたことを発表するのが楽しい。 これだという答えがないので苦手だ。 登場人物の気持ちを考えるのが難しい。
文学的文章を読むとき, どんなことに気を付けているか。	登場人物の気持ち 話がどのように展開していくのか 話の様子を頭の中で絵にしながら

児童は, 読書活動等で賢治作品にふれており, 岩手県の童話作家ということから親近感をもっている。しかしながら, その作風や表現については意識していない。文学的文章の学習においては, 多様な感じ方をもち, 個々の読みが見られる一方で, 印象的な段階に留まっていることも否めない。ゆえに, 賢治作品に見られる表現の豊かさに気付き, それらが醸し出す雰囲気や根拠に作品の世界を想像することで, 読みを深められるのではないかと考えた。

本単元では, 「やまなし」の優れた表現にふれ, 感じ取った作品世界を朗読に表すという言語活動を設定し, 表現を通して豊かな想像を広げながら読み取る力を付けさせたい。

(2) 教材について

本教材は, 小さな谷川の世界を水底に住む小さな蟹の親子からの視点で描いたものである。二枚の幻灯に表された「五月」「十二月」の世界は, 色彩豊かな表現や比喩, オノマトペなどが使われており, 感じ取ったことなど, 想像豊かに読み深めるのに適した教材である。児童はこれまでも, 「白いぼうし」や「わらぐつの中の神様」などにおいて, 色彩表現が醸し出す雰囲気や優れた表現にふれてきている。1学期には, 賢治作品のオノマトペから思い描く印象を交流し, 多様な感じ方にふれ, 考えを深めた。

本単元を中心とする指導事項は, 読むことエ「登場人物の相互関係や心情, 場面についての描写をとらえ, 優れた叙述について自分の考えをまとめること。」である。作品に多用されている比喩や色彩等の表現を通して, 作品世界を豊かに想像し, 内容理解を深めるようにさせたい。

このことは, 中学校第1学年の指導事項「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み, 内容の理解に役立てること」や「比喩や反復などの表現の技法について理解すること。」にもつながっていくものと考えられる。

(3) 指導について

本単元では, 優れた表現にふれ, 豊かな読みの世界を想像することを学習のねらいとしている。そのために, 表現を通して得た読みを朗読に表す言語活動を位置付ける。比喩や色彩等といった表現の読み取りを念頭に置き, それを根拠に, 「やまなし」の世界を朗読で表現させたい。

単元導入では, 資料「イーハトーブの夢」を読み, 宮沢賢治の人物像や願いや考えをとらえさせ

ていく。また、作品を通して得た読みを朗読で表現するという活動のゴールを伝え、単元の見通しをもたせる。その際、複数の朗読 CD を聞かせ、個々の解釈により様々であることも気付かせたい。読み取りにおいては、比喩や色彩表現等に目を向け、場面の様子や作者の意図についても考えさせていく。単元終末では、読み取ったことを根拠に朗読で表現することで、本単元のねらいに迫らせたい。

3 単元の見通し

(1) 国語への関心・意欲・態度

表現の特色や作者の人物像を通して、「やまなし」の表す世界を豊かに想像することができる。

(2) 読むこと

場面についての描写をとらえ、優れた表現世界について自分の考えをまとめることができる。

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

作品に表れる表現工夫に気付き、語感や言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。

4 指導と評価の計画

次	時	学習内容	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
小5		優れた表現を味わいながら読み、作品の特色をとらえ、自分なりの考えや思いをもつ。	優れた表現を味わいながら読み、作品の特色をとらえ、自分なりの考えや思いをもっている。	優れた表現を味わいながら読み、作品の特色をとらえて読んでいる。	場面の様子や人物をどのような言葉で表現しているか関心をもっている。
一	1	資料「イーハトーブの夢」を読み、人物像や願いをとらえる。	賢治の人物像や願いについて関心をもち学習にいかそうとしている。	賢治の人物像や願いについてとらえている。	語句の意味について調べ、理解している。
	2	初発の感想をまとめる。学習計画を立てる。	作品の印象や感想をまとめようとしている。	読後の印象や感想をまとめている。	語句の意味や知識について、理解している。
二	3	作品全体の構造をとらえる。	作品構造などの設定をとらえようとしている。	全体を概観し、構造や設定をとらえている。	額縁構造や対比、設定について気付いている。
	4	擬人法やオノマトペ、造語から作品をとらえる。	表現に興味をもち作品を読もうとしている。	擬人法やオノマトペ、造語をとらえ読んでいる。	擬人法やオノマトペ等の効果に気付いている。
	5	色彩や比喩表現から作品をとらえる。	表現に興味をもち作品を読もうとしている。	色彩や比喩表現をとらえ読んでいる。	色彩や比喩表現の効果に気付いている。
	6	作品の意図について考える。	表現の工夫をとらえ、作品世界を想像しようとしている。	表現や人物像から作品世界を想像している。	表現等を通して、作品世界を想像している。
三	7 【本時】	どのように朗読で表現するのかを考える。	朗読の工夫について考えようとしている。	叙述や読み取りを根拠に工夫を考えている。	表現等を通して、作品世界を想像している。
	8	「やまなし」の作品世界を朗読で表現する。	読み取りを朗読で表現しようとしている。	読みを根拠に朗読に反映させている。	表現の効果を朗読に生かしている。
中1		場面展開や人物の描写に注意して作品を読み、登場人物の心情の移り変わりとらえる。	場面展開や人物の描写に注意して作品を読もうとしている。	場面展開や人物の描写に注意して作品を読み、登場人物の心情の移り変わりとらえている。	情景や心情を豊かに伝えようとする文学作品には、様々な表現の工夫があることに気付く。

5 本時の指導

(1) 目標

作品の特色である表現や作者の人物像などこれまでに読み取ってきたことや叙述を根拠に、朗読の工夫について考えることができる。

(2) 評価規準


評価の観点	評価規準
国語への関心・意欲・態度	表現の工夫をとらえ、作品世界を想像しようとしている。
読む能力	作品に見られる表現や賢治の人物像から作品世界を想像し、考えを広げたり、深めたりして読んでいる。
言語についての知識・理解・技能	作品に使われている表現等を通して、作品世界を想像している。

(3) 展開

段階	学習活動	●指導上の留意点 ◎評価
導入 3分	1 前時の想起 2 課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> これまでの読みをもとに、どのように朗読で表現するのかを考えよう。 </div>	● 解釈あつての朗読であることを確認する。
展開 35分	3 課題の解決 (1) 特に自分が表現したい場面を決める。 ・どの場面か。(叙述を明確にする) ・なぜ、その叙述か。(理由を明確にする) (2) 自分が感じたことをどう朗読で表現するのかを考える。 ・どう解釈したのか。(自己の読み取り) ・どの叙述からそう読み取ったのか。(根拠) ・聞き手に何を伝えたいのか。(動機) ・どのように朗読したらよいか。(方法) (3) どのように朗読したらよいかを交流する。 ・友達の考えからさらにヒントが見つからないか。 ・友達はどう考えたのか。 ・自分の考えが友達のヒントとなるのではないか。 ・どうしたらよいか困っていることはないか。 ・自分だったらこうしてみる。	● 場面、理由、解釈は、事前にある程度考えておく。本時では、その中で特に表現したい場面とする。 ● 作品に描かれた表現や賢治の人物像等を掲示し、考える手がかりとする。 ・色彩表現や比喻表現、情景描写 ・「五月」「十二月」の対比や類比 ・作品独特の造語やオノマトペ ・作品の構成や登場人物の様子 ・賢治の人物像や生き方 等 ● 交流については小集団とし、あらかじめグルーピングしておく。 ● 場面、解釈、根拠の叙述、表現方法、動機は明確に伝える。

終末 7分	4 まとめ 交流活動も踏まえ、どう朗読するかを書く。	
	<p>【本時における目指す児童の姿】 (例)「やまなし」の朗読では、「五月」のかわせみが、いきなり飛び込んでくる様子を、場面が急展開して怖さが伝わるように最初は低く静かに、「いきなり」の所から力強く、早く読み静かな世界に死の恐怖が迫るよう朗読してみたい。</p>	<p>◎ 作品に見られる表現等から作品世界を想像し、朗読に生かそうとしている。(ワークシート)</p>
	5 振り返り	<p>● 分かったことや気付いたこと、友達のよさについて、本時で思ったことを文にまとめ、学びを実感させる。</p> <p>【振り返り 例】 作品と照らし合わせながら、どう朗読を工夫すればよいかを考えることができた。感じ方も違い、表し方もそれぞれで朗読のヒントとなった。今日の学習をもとに、聞いているみんなに「やまなし」の世界が伝わるような朗読にしていきたい。</p>
6 次時の確認	<p>● 朗読発表することを確認、意欲をもたせる。</p>	

(4) 板書計画

<p>児童の考え</p>	<p>自分が朗読する「やまなし」の世界</p> <p>「自分だったらこうしてみるなど、アドバイス」</p> <p>「困っていることはないか」</p> <p>「自分の考えが友達のヒントに」</p> <p>「友達からさらにヒント」「友達はどうか考えたのか」</p>	<p>交流の観点</p> <p>「何を伝えたいか」「どのように朗読したらよいか」</p> <p>「どう解釈したか」「どの叙述から」</p>	<p>作品に使われている表現技法</p> <p>擬人法 オノマトペ 色彩表現 比喩表現</p>	<p>「五月」の世界</p> <p>「十二月」の世界</p>	<p>賢治の人物像や考え方</p> 	<p>優れた表現を味わい、作品の世界を朗読で表現しよう</p> <p>これまでの読みをもとにどのように朗読で表現するのかを考えよう。</p>
--------------	--	--	--	--------------------------------	---	--

